

新連載

内海善雄の (ITU前事務総局長) やぶ睨み 「ネット社会」論

「技術では勝つていく」という言い訳は、やめよう

の時価総額が日本の電子産業全体の額を上回ったのは数年以上も前のことであった。

一方、日本のソニーやパナソニックの〇九年度は、それぞれ七兆円台の売り上げを予想しているものの、赤字を見込んでいる。また、日本企業の携帯端末や半導体は、世界市場では皆無に近い。

元気のよい韓国IT産業の活躍を見せつけられて、誰もが韓国に負けていると思うようになった。しかし、これは十数年も前からの現象であり、最近やっと皆が認めるようになってきたものだ。

問題は、十数年間もその事実を認めようとしなかった日本人のマインドである。そこに、なかなか立ち直れない日本社会の大きな問題が見え隠れしている。

「技術は進んでいく」という慢心

韓国のサムスン電子の二〇〇九年十二月期の売り上げは、日本円で十一兆円、営業利益は九千億円だという。携帯端末の世界シェアは三〇%を超え、半導体でもここ数年、圧倒的シェアを維持している。サムスン電子一社

に「日本より十年は遅れていると専門家は言っている」と反論したことがある。

かつては、米国のATTIや日本のNTT、欧州のエリクソンなどの企業がITUに大勢の代表を送り込み、開発した技術の世界標準化を画策した。ところが、私が事務総長としてITUに赴任した一九九九年には、すでに日本の存在感が薄かった。日本人らしきアジア人が大勢、会議に出席しているので嬉しくなって声をかけると、韓国や中国の代表であった。日本からの標準化の提案は激減し、多くは韓国からであり、最近では中国も多い。ITUの職員たちは、この状況の変化を十数年前から見えていたのである。

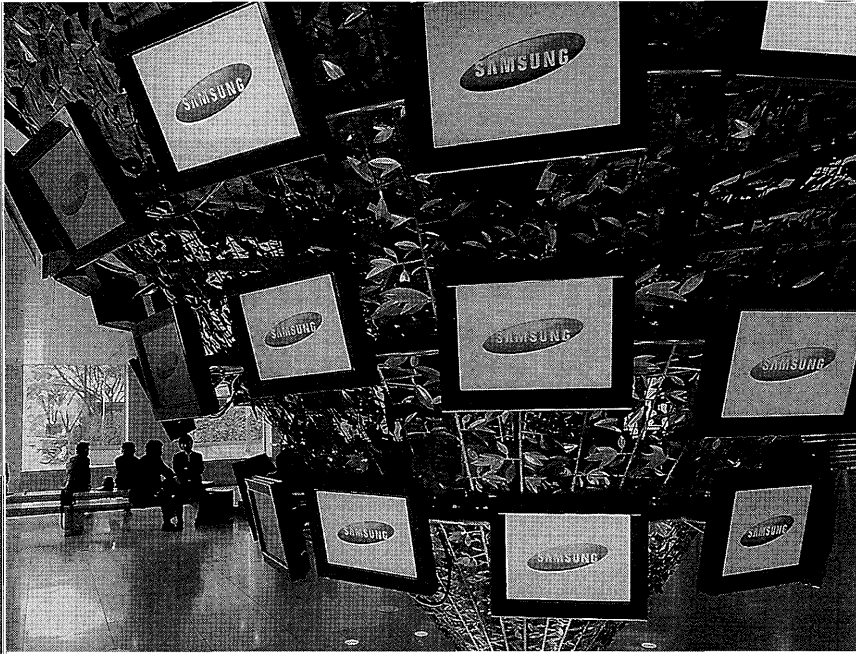
「言い訳」ばかりのベンダー

日本の携帯電話が世界のマーケットでは皆無の状況の理由として、ガラパゴス化がいわれている。「日本で高度に発達した高機能の携帯端末は、技術は世界一だが、世界では売れない」というのである。これほど日本人のプライドを満足させる「言い訳」はない。

今から七年前にITU(国際電気通信連合)が韓国で開催したアジア・テレコムで、日本は悲惨であった。アジア地域のほぼ全大臣や世界の企業トップが出席する、この電気通信技術のビジネス・ショーに、日本企業は各社横並びで二層四方のパネル一枚だけの展示であった。その横で、韓国や欧米の企業が何百平方メートルのパビリオンを展開したのだ。

惨めな状況に、ある日本企業のトップは「韓国に技術を盗まれるだけだ」と言っている。盗みをしてきた。商品展示のビジネス・ショーで本当に技術を盗まれるのだろうか。

業界の多くの人たちは、今でも「技術では日本が勝っている」と言う。しかし十年ほど前、あるITUの職員に「サムスン電子の技術が一番進んでいる」と言われ、驚いて即座



世界に冠たるサムスン電子になっている

しかし、四年前、香港で開催されたイベントで、香港政府が各国代表に配った地元の電話会社の携帯電話は中国の華為技術社製で、カメラ、MP3、Bluetoothを搭載、しかも英語、仏語、スペイン語、中国語が使用可能、当時の日本の製品に引けをとらず多機能かつ小型だった。そのうえ、GSM、3Gのデュアル・モードで、全世界で使用可能、もちろん日本でも使えるものであった。

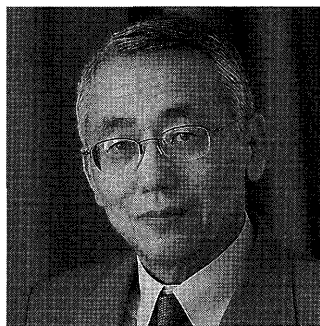
高度技術が必要で、かつ、市場が急拡大した携帯電話は、資源を集中して一気に展開しなければグローバル・ビジネスはできない。日本企業には、それだけの戦略と資源の集中、スピード感がまるでなかった。

現実直視が復活への近道

「日本の携帯電話は独自の規格で、世界標準ではなかった。だから世界のマーケットに出られなかった」と主張する者も多い。しかし、韓国の携帯電話も世界標準ではなかった。さらに今、日本で普及している第三世代の携帯電話は世界標準であり、しかも、世界に数年も先駆けて商用サービスを開始した。だが、日本製品の外国でのシェアは皆無に等しい。

企業経営者は、「人件費が高いから、中国や韓国の企業に対抗して安価な携帯端末は作れない」と言う。しかし、その企業が他の商品では、すでに現地生産をして対抗しているではないか。

イグアナは、世界から隔離されていたからこそ独自の進化をした。日本は、世界から隔離されてはいない。しかるに、多くの分野で世界の動きやニーズを無視して、自分で勝手にガラパゴス化している。



内海善雄(うつみ よしお)

1942年香川県高松市出身、東大法学部卒。東芝を経て66年郵政省入省。98年国際電気通信連合(ITU)事務総局長就任。現在、財団法人「通信・放送コンサルティング協力」理事長。

「韓国の熾烈な受験競争や、会社の中での厳しい競争は有名だ。また、トップ・ダウン方式の果敢な経営手法もよく耳にする。韓国が強い理由は、皆がよく知っている。だがわれわれは、「そこまではしなくても」という気持ちを持っていないだろうか。日本には、できるだけ波風を立てない、そして横並びと先例に従う事なかれ主義が蔓延している。それだけならまだしも、一見、本当らしい「言い訳」に、あえて疑問を挟もうともしない。

日本は、OECD先進国の中で科学技術や高等教育への予算配分比率が最低である。また、理科系を嫌う風潮もはなはだしい。そんな中でも、「技術では日本が優れている」とノー天気信じていると、鉄砲と馬と非情な異文化の戦略で一夜のうちに滅ぼされたマヤ文明になる危険性すらある。

今こそ、国を挙げて現実を直視し、「技術では勝っている」と言い訳をやめることこそが、坂の上の雲を見つめた科学技術立国に再復活する近道だ。